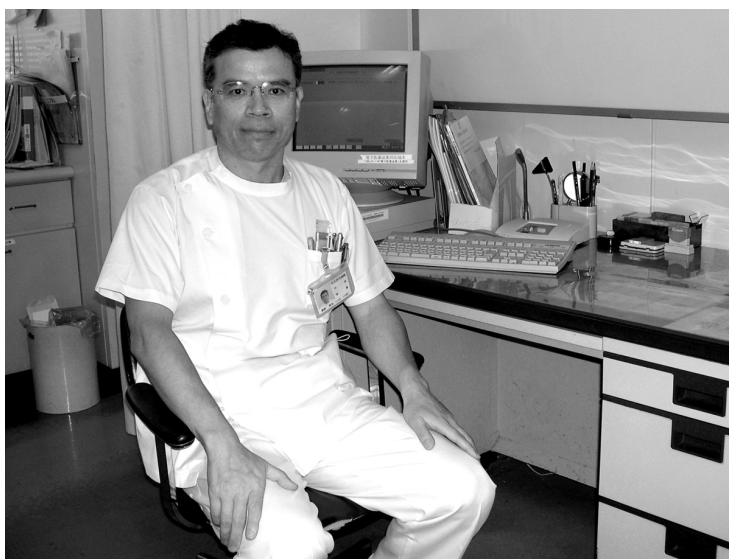


乳癌検診について



乳癌は、最近、新聞、テレビなどのマスコミで取り上げられることが多く、最も関心のもたれている癌の一つです。

わが国でも、女性の悪性腫瘍のなかで罹患率、死亡率の最も高いものの一つで、乳癌発生のリスクファクターとして、食事の欧米化(高脂肪食)、未婚、未産、初産年齢の上昇、初潮の低年齢化や閉経の高年齢化などがあります。また、乳癌は他の癌に比べて大変経過の長い癌で、10年たっても再発することがあり、長期のフォローが必要となります。死亡率に関しては、わが国

では増加の一途をたどっていますが、欧米では1990年代から低下しています。

その要因として、市民の啓発・社会全体の取り組み、術後療法による再発防止とともにマンモグラフィー検診があげられています。マンモグラフィー検診により、より小さな癌が早期発見されることにより、生存率が改善しました乳房温存率も上昇します。伊丹市においても、平成17年4月からマンモグラフィー検診(40歳以上)が導入されました。今までの触診のみの検診に比べて、格段に精度が上がります。また、被爆に関しても、1年間にあびる自然放射線の約十分の一以下とほとんど問題になりません。ぜひマンモグラフィー検診を受けられることをおすすめします。ただ、マンモグラフィー検診の問題点として、マンモグラフィー読影医が少ないことと、何か異常のあったときに精密検査を行う施設、専門医がさらに少ないことです。乳癌学会のホームページでは、乳腺専門医は全国でわずか450人です。(兵庫県では12人)マンモグラフィー検診施設の受け皿をふやすこととともに、精密検査施設の受け皿をふやすということが今後の問題点であると思われます。

どこの施設でもある一定の水準の検査が受けられることが重要となります。当院でもマンモグラフィー撮影日をふやしていますが、専門外来日に関しては、現在は水曜日の午後のみで何とか対応していますが、今後の患者さまが増加すれば診察日の増加も検討しております。今後、さらに患者さまの増加が予想されますが、すこしでも専門医として市民の皆様のお役に立てればと思っております。皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

外科部長 国府育央(乳腺専門医)

地域医療室のご案内

地域医療室ってご存知ですか？

1階正面玄関入口横にローカウンターがあります。そこが総合案内と地域医療室です。地域医療室って聞いたことはあるけど何をしてくれるところかよくわからない、それって何。とっと思っていらっしゃる患者さまも多いと思います。

今回は地域医療室についてご紹介したいと思います。

地域医療室は、平成10年に地域と病院の医療や福祉をつなぐ機関として設置されました。

昨年、現在の場所に移動し、役割も拡大しています。

職員は看護師長1名、看護師1名、ソーシャルワーカー2名と事務職1名と総合案内担当1名で業務を担当しています。

地域医療室では患者さまの療養でお困りのことの相談・他機関などとの連携などさまざまな患者さまのニーズに対応しています。

また、地域の医療機関から当院への患者さまの紹介、あるいは当院から地域の医療機関への紹介（逆紹介）の窓口になるなど地域医療の連絡調整を行っています。

1. 医療・福祉の連携の窓口として関連機関との連絡・調整を行っています。
2. 地域の医療機関から地域医療室をとおしてご予約いただいた方やご紹介状をお持ちの方は地域医療室窓口で受付やご案内をさせていただきます。
3. かかりつけ医のご相談やご紹介をさせていただきます。
4. 各種相談や総合的な案内を行っております。

◆ 保健、福祉サービスや介護保険制度について

◆ 自宅での療養、転医、施設入所など、退院後の療養について

◆ 医療費について

◆ 女性の医療について

◆ 受診科について

◆ 病気や健康相談について

◆ 苦情その他お困りのこと



5. 健康や病気の自己管理に関するビデオのレンタルサービスを行っております。

地域医療室はとても分かりやすい場所にあります。

何か困ったことがあれば、まずは気軽に地域医療室にご相談ください。

地域医療室スタッフが笑顔で対応させていただきます。

地域医療室師長 原田さとみ

診断能力の高いCR装置(一般撮影装置)が更新されました。

X線は1895年にレントゲン博士によって発見されて以来、現在まで広い分野で応用されています。その中でも医療の診断や治療に多くの功績を残しました。そのX線を写真にする装置の一つがCR (Computed Radiography) 装置です。平成17年2月より当院の一般撮影で使用されるようになりました。CR装置と言いますと、難しく聞こえますが、従来の装置をアナログカメラ、CR装置をデジタルカメラで例える事が出来ます。以前のアナログカメラであれば、現像しないと写真が確認できず、写真が黒い場合ではどうしようもありませんでした。デジタルカメラでは撮影した画像をすぐにカメラ本体で確認でき、写真を後から様々な色に変化させる事も可能です。これらの機能が従来の一般撮影装置とCR装置の一番大きな違いです。

以前では撮影した画像の濃度(黒さ)を変化させる事ができなかったため、骨と軟部組織を一回の撮影で観察することは不可能でした。CR装置では画像をデジタル処理しているので骨と軟部組織を一回の撮影で観察することができます。撮影した画像も30秒以内に確認することが出来るため、患者さまの待ち時間も少なくてすむようになりました。撮影した後に画像の拡大や縮小もできます。画像をイントラネットを通してさまざまな場所で観察を行うことも考えています。また、目的によってはX線量を減らして撮影することもできます。



骨を観察



軟部 (アキレス腱)
を観察

画質は少しおちますが、妊婦さんの撮影や小児の撮影でこの機能を用い被曝の軽減に努めています。その他にも色々な機能が備わって、診断に大きく貢献しています。

撮影台も新しくなりました。以前では撮影台が高くて上り下りに怖い思いをされた方も多いと思うのですが、今回の装置では撮影台がかなり下がるようになり、車椅子で来られた患者さまでも今までより楽に撮影台に上がっていただくことが出来るようになりました。

一般撮影は毎日多くの患者さまの撮影を行っています。患者さまに負担をできるだけかけないようにスタッフ一同今後も努力をしていきたいと考えています。よろしくお願ひ致します。

女性総合外来のご案内

当院では、女性医師による「女性総合外来」を行っております。何か自分の体や病気のことで心配のある女性、悩みのある女性、一度受診をされてはいかがでしょうか。

○診察日時 毎週木曜日、午後2時から4時、完全予約制（1人30分）

○申し込み方法 総合案内で直接お申し込みいただくか、電話の場合は、平日の午後1時から4時まで女性総合外来（072-777-8320）で受け付けております。

ロビーコンサートのお知らせ

7月9日（土）午後4時から1階正面ロビーにおきまして「コーロ・あまでゆうず（混声合唱）」、フルートとギター（Igor Golger イゴール・ゴルガー、梶本弘子）により「たそがれコンサート」と銘打ちまして、ロビーコンサートを行います。

入場は無料です。奮ってご参加ください。

人間ドックのご案内

定期的に当院で人間ドックをご利用いただきますと検診データの蓄積により、担当医の指導内容も的確なものとなります。また、要精密検査や要治療となった場合でも、当院での早期治療の体制が整っており、その検診データを有効利用できます。

ご自身の健康管理のために、年に一度の人間ドックのご利用をお勧めいたします。

ご利用に当たっては、伊丹市の国保加入者の方には、2分の1から最高4分の3までの助成制度があります。また、健康保険組合の方も助成制度がありますので、ご確認の上お申し込みください。

コース、利用料金は、次のとおりです。

| | | |
|------------------|--------|---------------|
| ①1泊2日のホテル泊 | 昼・夕食付き | 63,000円（消費税込） |
| ②0泊2日の日帰り | 昼食付き | 47,000円（ 〃 ） |
| ③日帰り（午前中で終わります。） | 軽食付き | 38,000円（ 〃 ） |

医師の人事異動が下記のとおりありましたので、お知らせいたします。

| | | | |
|-------------|-------|--------------|------|
| 採用（17年5月1日） | | 退職（17年4月30日） | |
| 皮膚科 | 宮本園子 | 麻酔科 | 岡麻奈扶 |
| 内科 | 福岡準人 | 皮膚科 | 八杉由美 |
| 採用（17年6月1日） | | 退職（17年5月31日） | |
| 脳神経外科部長 | 山本弘志 | 耳鼻いんこう科部長 | 前谷近秀 |
| 小児科副医長 | 神尾範子 | 内科医員 | 豊島優子 |
| 内科医員 | 田幡江利子 | 内科研修医 | 西澤光生 |
| 整形外科医員 | 三輪俊格 | 内科研修医 | 築家直樹 |
| 内科研修医 | 小野万里子 | 内科研修医 | 高井美和 |
| 小児科非常勤医師 | 中里寿美子 | 小児科研修医 | 旗智武志 |